キー・ラーゴ（1948）

KEY LARGO

メディア 映画
ジャンル ドラマ　犯罪　サスペンス
製作国 アメリカ
色彩 B&W
時間 101分
初公開日 1951/11/13
公開情報 セントラル

【解説】

戯曲の映画化で、そんな劇空間の狭さを感じさせる箇所もあるが、監督ヒューストンと、やはり彼のように後に監督になった脚本家Ｒ・ブルックスによって、まずは立派に映画用に書き改められ、演出にも力が漲っている。復員将校のボギーが亡き戦友の遺族（バコールの未亡人、バリモアの老父）をフロリダの突端、キー・ラーゴに見舞う。そこで彼らが経営するひなびたホテルはＥ・Ｇ・ロビンソン扮する凶悪犯一行の隠れ家になっていて、ハリケーンの訪れと共に彼らの焦燥は暴力となって吹き出す。戦争で虚無的になっているボガートは初め無抵抗だが、やがて怒りに目覚めて立ち向かって行く。暴風雨に脅えながら狂って行くロビンソンが恐い。そのアル中の情婦を演じたＣ・トレヴァーがオスカーの助演賞を得たが、出番も短く、それ程の役でもない。長い経歴の彼女に対する功労賞的なものだろう。

【クレジット】

監督	ジョン・ヒューストン	John Huston	
製作	ジェリー・ウォルド	Jerry Wald	
原作	マックスウェル・アンダーソン	Maxwell Anderson	
脚本	リチャード・ブルックス	Richard Brooks	
	ジョン・ヒューストン	John Huston	
撮影	カール・フロイント	Karl Freund	
音楽	マックス・スタイナー	Max Steiner	
出演	ハンフリー・ボガート	Humphrey Bogart	フランク・マクロード
	ローレン・バコール	Lauren Bacall	ノラ・テンプル
	クレア・トレヴァー	Claire Trevor	ゲイ・ドーソン
	エドワード・Ｇ・ロビンソン	Edward G. Robinson	ジョニー・ロッコ
	ライオネル・バリモア	Lionel Barrymore	ジェームズ・テンプル
	モンテ・ブルー	Monte Blue	ベン・ウェイド保安官
	トーマス・ゴメス	Thomas Gomez	リチャード・ホッフ
	ハリー・ルイス	Harry Lewis	
	ジョン・ロドニー	John Rodney	
	マーク・ローレンス	Marc Lawrence	

このデータベースのデータおよび解説文等の権利はすべて株式会社スティングレイが所有しています 。
データ及び解説文、画像等の無断転用を一切禁じます。 Copyright (C) 2024 Stingray. All Rights Reserved.